

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

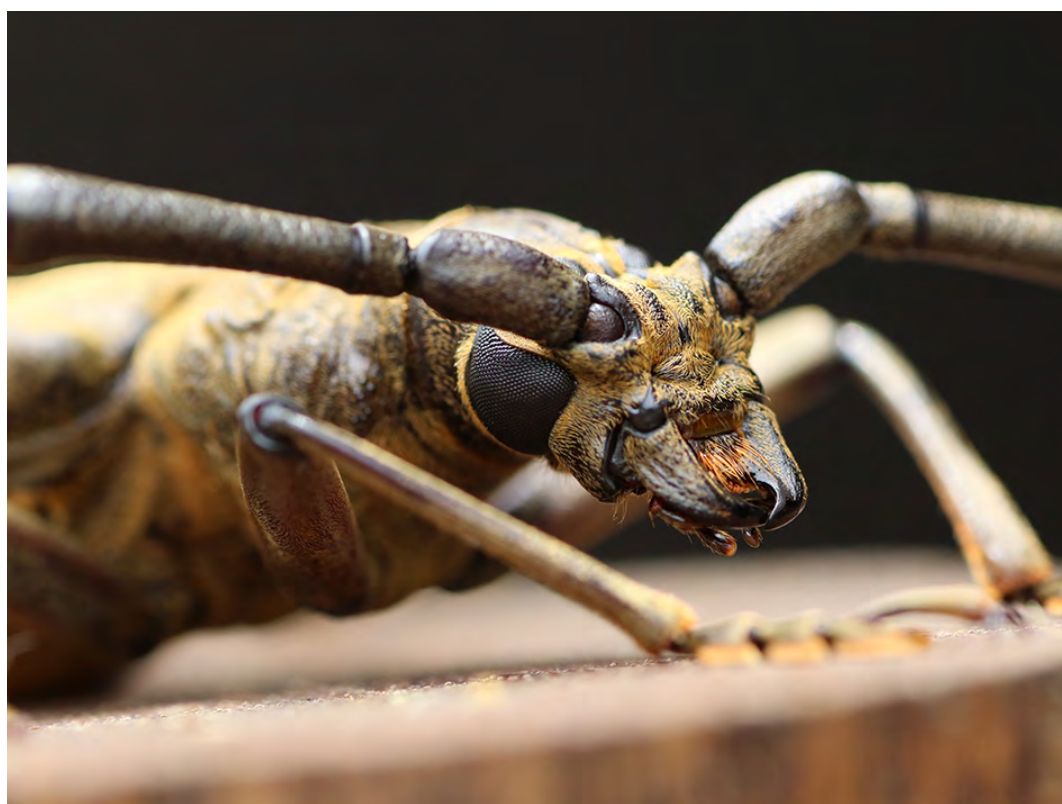
令和8年(2026年)

6-7月号

(通巻 224号)

2026年度

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



ミヤマカミキリ  
駅のホームの明かりに飛んできました。  
アップで撮影すると複眼や鋭い大アゴ、  
黄色の毛など細部を見ることが出来ます。

自然博物館収蔵写真

撮影日:2024年7月8日 撮影地:市川大野駅産

- |              |                                       |    |                              |
|--------------|---------------------------------------|----|------------------------------|
| P1           | 🌞 いきもの写真館<br>ミヤマカミキリ                  | P6 | 🌞 くすのきのあるバス通りから<br>庭の草を調べました |
| P2<br>/<br>3 | 🌞 センサーカメラを使った調査-2<br>タヌキ・ハクビシン        | P6 | 🌞 ミニ解説 市川市域<br>谷津のつくり        |
| P4           | 🌞 花を透明にして観る<br>ユウゲショウ                 | P7 | 🌞 わたしの観察ノート<br>3~4月の記録       |
| P5           | 🌞 市川自然のトピックス<br>脇役が面白い!<br>樹液に集まる昆虫図鑑 | P8 | 🌞 ご案内                        |

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



## タヌキ・ハクビシン

センサーカメラ（自動撮影装置）に写る回数がダントツに多いのがタヌキです。2台のカメラ両方ともよく写り、特に水場では滞在時間が長いので、データ数も多くなっています。ハクビシンは、タヌキ、ネコに次いで写る回数が多いですが、数はずっと少なくなっています。

### タヌキ

多数の撮影データを見ていて印象に残っているのは、「きょうだい」と思われる個体がいっしょに行動しているように見えることです。個体識別しているわけではないので確定的なわけではありませんが、体の大きさや行動を共にする頭数を見ていると、そのような印象を受けます。

写真 左上：ポートレート 右上：水を飲む 左下：水場でじゃれるきょうだい 右下：暑い夏の睡眠



## ハクビシン

ハクビシンは、水場よりもけもの道でよく写る印象があります。また、地上でも倒木上を歩くことが多いようです。やはり、地上性のタヌキ、樹上性のハクビシンということでしょうか。水場に現れた時も必ずしも水を飲むわけではなく、うろうろして立ち去ることも多いです。また、日中に写ることが極めて少なく、そのためカラーのデータが少ないのも特徴です。もっともこれはタヌキも同様で、タヌキが日中に写ったのは公園利用者に執拗に餌付けられていた時期と、あとは疥癬にかかってふらふらな個体のことが多いです。

特徴的なのは脱糞で、水場のトレーのふちにまたぐように乗り、その姿勢で糞をします。なので、糞は水中です。水場で糞をするのは、動物園の飼育個体でも見られる行動だそうです。ハクビシンは果実食なので、糞をした水は甘い匂いがし、水中には果実の種子が溶け落ちています。また、タヌキが水場の中にじゃぶじゃぶ入るのに対し、ハクビシンはトレーのふちを器用に歩くことの方が多いです。

**写真 左上：ポートレート 右上：きょうだいと思われる群れ（ハクビシンが複数同時に写ることは多くない） 左下：水を飲む 右下：トレーのふちを歩く**



花を透明にして観る\*\*\*\*\*

# ユウゲシヨウ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいましたが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいましたが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



## ユウゲシヨウの花

- ・花のつくりはわかりやすく、4枚の花弁（花びら）、8本の雄しべ、4つに分かれた雌しべでできている。
- ・花の脱色には手指消毒用のアルコールを使っているが、ユウゲシヨウのような赤系の色素は溶けやすく、すぐ透明になる。
- ・ユウゲシヨウの花は花弁の主張が強く、その印象ばかりが残るが、花弁を透明にすると別のイメージになる。
- ・花弁を透明にして花を裏側から見ると、普段は花弁がじゃまで見ることができない角度で見ることができる。うまく写真が撮れなかったので、ぜひみなさんでやってみて！

# 市川自然のトピック

## 脇役が面白い！樹液に集まる昆虫図鑑

### 樹液のにぎわい

樹液に集まる昆虫と言えば、カブトムシとクワガタムシが有名です。むしろ、それ以外の昆虫に注目する人は少数派でしょう。しかし、そんな脇役たちも魅力あふれる昆虫だらけ！無視するのはもったいないのです。

### 市川市周辺で見られる代表的な脇役たち

樹液に集まる昆虫は昼と夜で顔ぶれが変わります。同じ場所に様々なタイプの昆虫が集まるだけでも面白いですが、時間帯によってメンバーが変わるのも魅力のひとつです。樹液に集まる昆虫をすべて紹介するのは不可能なので、よく目立つ種類に絞って紹介します。



図 1. オオスズメバチ (昼)  
昼の樹液で一番目立つ存在  
危険なので離れて観察しよう



図 2. ルリタテハ (昼)  
翅を広げると目立つが、閉じている  
と樹皮と同化して見つからない



図 3. サトキマダラヒカゲ (昼)  
夕方に活発に飛び回り  
樹液にあつま



図 4. カナブン (昼)  
昼間の樹液を代表する昆虫  
相撲のように喧嘩をしている



図 5. クロカナブン (昼)  
つやのある黒色のカナブン  
8月によく見かける

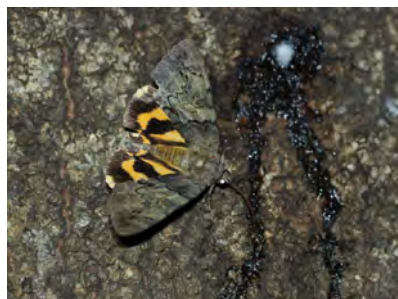


図 6. キシタバ (夜)  
樹液を吸っているときは  
翅を開いていることが多い



図 7. ムクゲコノハ (夜)  
カブトムシくらい大きなガで  
樹液ではとてもよく目立つ

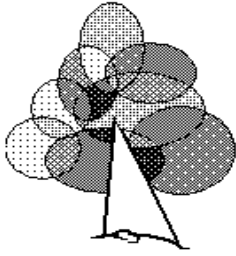


図 8. アカアシオオアオカミキリ (夜)  
夜に樹液に集まるカミキリムシ  
近年見かける機会が増えた



図 9. ヨツボシケシキスイ (昼・夜)  
樹液につかっいて  
昼も夜も見ることができる

図 1. 20231006 市川市 長田谷津. 図 2. 20260628 市川市 市川市動植物園. 図 3. 20180818 松戸市. 図 4. 20240702 市川市 市川市動植物園.  
図 5. 20240807 流山市. 図 6. 20240803 流山市. 図 7. 20240806 流山市. 図 8. 20240806 流山市. 図 9. 20240811 流山市.



# 庭の草を調べました

5月14日の夜10時頃、二階から娘が下りてきて、「『特許許可局』って聞こえた」と。ホトトギスの渡りだと思われます。何回か私も聞いたことがあり、「夜飛びながら鳴くのかな」と疑問のままです。山歩きをしていると、ウグイスやコジュケイの、下手な、何か自信なさそうな鳴き声に続いて、ガビチョウの派手なさえずりが聞こえました。自然博の方に聞くと、ガビチョウは物まねをするそうです。

バス通りから、路地、我が家の周り、庭の草を調べました。近所からもらった、ムラサキツユクサは、茎が倒れない

ように支柱と枠で囲ったのが良かったのか、紫の花を、咲かせています。ドクダミの白い花の中で、きれいです。かつて、空き地だった頃からは、カンゾウの仲間、ヒガンバナ、ドクダミ、ヤブガラシ、ヨモギ、トコロ、ノビル、スギナです。ヒルガオは絶えました。今までよく見られていて、あんなにはびこっていた、ヒメツルソバは、ありません。ナガミヒナゲシ、アメリカフウロ、キキョウソウやヘラヘラヨメナは背丈が低くなり、数が少ないです。今年、地面を覆っているのは、ツタバウンランです。

(M. M.)

≡ 二 角 罕 言 兎

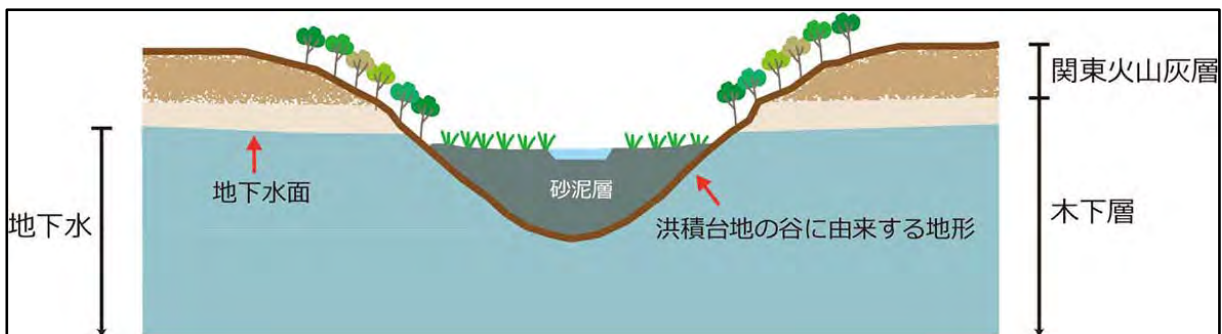
No.8

## 市川市域

## 谷津のつくり

前回紹介した谷津の景観を、地下も含めて模式的に表したのが下の図です。これは、長田谷津に限らず下総台地に刻まれる谷津の基本的なつくり（断面）になります。谷津はもともと谷底が平らなわけではなく、普通の谷が途中まで埋まったことで谷底が平らになっています。つまり谷津は2つの要素からできていて、ひとつが元になる谷の地形、もうひとつが谷底を埋める砂泥です。

谷の地形は洪積台地の谷に由来するものでおよそ2万年前に形成され、谷底を埋める砂泥は数千年前に堆積しました。谷の地形の下部には木下層という砂の分厚い地層があってここに地下水が溜まり、それが湧水として砂泥でできた層に流れ出します。そのため砂泥層は水を含み、谷津の谷底は湿地の環境になっています。



# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- 暖かな日、枯れ草の上をキタテハが飛びました(3/1)。離れたところをルリタテハも飛びました。回り始めた季節を実感できました。

金子謙一(自然博物館)

- エコアップ池を覗くと、大きなドジョウが2匹見えました(3/6)。近づくと、泥煙を巻き上げて潜りました。

稲村優一(自然博物館)

- 斜面裾の湿地の掘り上げを進めました。この時期はいつもそうですが、越冬中のサワガニがいました(3/9)。土中に蛹室のような空間をつくり、そこには水がたまっていて、体が乾かないようにして潜んでいます。
- 花が散り始めました(3/23)。コブシは咲いた状態で花びらが茶色になることがあるので、茶色い花に見ることがあります。ぎりぎりまで花の部品としてふるまう考え方は散り際のよさとは異なりますが、これはこれでコブシのスタイルです。

以上 金子謙一

- 園路にとまるシオヤトンボを何匹か見かけました(4/5)。どんどん羽化しているようです。

稲村優一

- 早春に咲いたイヌコリヤナギの実が熟して、綿毛のタネが飛んでいました(4/13)。
- 園路沿いのハルジオンがきれいに咲きました(4/20)。花はきれいだし、いろいろな昆虫は来るので、自然観察ではありがたい植物です。

以上 金子謙一

- 湿地整備のボランティアさんと一緒に中央水路の草刈り作業を行いました(4/26)。水面が出るとすかさずクロスジギンヤンマのオスがやってきました。

稲村優一

## ◆動物園より

- 動物園の外周の林にフクロウがいました(4/15)。飼育されているフクロウに惹かれてとどまっている個体と思われれます。近づいたので飛び立ちましたが、すかさずキツネザルが騒ぎ始めました。キツネザルの獣舎からは離れているし見通しも悪いのですが、それでも気づくのですね。野生を失わないキツネザルに脱帽です。

## ◆坂川旧河口より

- ヤナギの一種の花が咲いていました(3/5)。雄株も雌株も咲いていました。花を見ているとぶんぶんと羽音が聞こえてきます。よく見ると、ミツバチらしいハチが花に来ていました。両脚に黄色い花粉団子が付き、体も花粉まみれでした。花が咲くと、ちゃんとハチが来るのですね。

以上 金子謙一

## ◆真間より

- 手児奈霊堂の池に、ゆっくり歩きながら餌をさがしている、アオサギがいました(4/19)。

T. M. さん

## ◆三番瀬より

- 海岸沿いの空き地でハマダイコンが満開でした(4/22)。

稲村優一

晴れて暖かい日が多くありましたが、雨が降ると肌寒く感じました。

# ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



## ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



## ＜行事のご案内＞

長田谷津は、大町公園の自然観察園のももとの呼び名です。

### ○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、  
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前

午前10時

解散：集合と同じ場所で

午前11時30分

	長田谷津 散策会	湿地 環境整備	スナヅメ レスキュー	ホトケドジョウ レスキュー
6月	6日（土）	28日（日）	7日（日）	27日（土）
7月	12日（日）	おやすみ	おやすみ	おやすみ
8月	8日（土）	おやすみ	おやすみ	おやすみ
9月	13日（日）	26日（土）	12日（土）	27日（日）
10月	17日（土）	25日（日）	18日（日）	24日（土）

### ○湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は・・・お電話で博物館までお問合せください。

### ○絶滅危惧種の保全活動（荒天中止）

詳しくはホームページをご覧ください

#### ・スナヅメ・レスキュー

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

#### ・ホトケドジョウ・レスキュー

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

第39巻 第2号（通巻第224号）

令和8年6月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477